

ディジタル音の著作権を管理できます！

知覚不可能な電子音響透かし法

技術分野分類 1006A：知覚情報処理・知能ロボティクス

技術キーワード C：音声情報処理

産業分類 G-39：情報サービス業

内 容	概 要	インターネットの普及に伴い、ディジタル音楽コンテンツの利用が盛んである。ディジタル音楽はその特性上、完全に複製することができるため、違法コピーや違法配信などを防ぐ著作権保護技術の確立が急務となっている。本技術は、ユーザには知覚されないように著作権情報を音楽情報自体に埋め込み、それを頑健に検出できる著作権管理技術（電子音響透かし法）である。
	従来技術・競合技術との比較（優位性）	電子音響透かしの研究では、その技術導入後の品質を保証するために、埋め込み情報に対して(i)知覚不可能性、(ii)秘匿性、(iii)攻撃に対する頑健性を満たすことが要求されている。従来技術のすべてがこれらの条件のいずれかを満たすことができず、電子音響透かし技術の普及には至らなかったが、本技術では、これらを満たしている点で優れている。
	本技術の有用性	本技術は、「蝸牛遅延特性」というヒトの聴覚が有する特性を逆手にとって、著作権情報を聞こえないよう（知覚不可能性）に音楽情報に埋め込み可能である。また、悪意のあるユーザに埋め込み情報を破壊されたり、容易に入手されないような工夫がなされている（頑健性と秘匿性）。
関連情報 （図・表・写真等）		
適用可能製品		ディジタルオーディオ機器 携帯電話
技術 シーズ 保有者	氏名 所属・役職	鵜木祐史 情報科学研究科 准教授
技術 シーズ 照会先	窓口 TEL/FAX e-mail	研究機構学術協力課産学連携係 0761-51-1906 / 0761-51-1427 unoki@jaist.ac.jp

■知的財産 特願 2011-196449 電子透かし検出装置及び電子透かし検出法

鵜木祐史、宮内良太

■試作品状況

無

提示可

提供可

作成日 2012年 1月19日